

いき過ぎた部分最適化社会の罪、後編

前回の vol.37 で「私たちの社会は部分最適化されるようなシステムになっている。その要因は制度論至上主義に起因しており、規制による枠組みが社会をバラバラにして縦割り化している。」と述べました。少し視点を地球規模に広げてみると、国際交渉も、アメリカ主導の枠組み論がベースで世界制覇されているように感じます。枠組み論をベースにすすめるだけでは、どうやっても世界がバラバラになっていくだけです。支配力のある人たちの非常に貧しい発想で世界が制覇されてしまっている現状が歯痒いです。…いきなり話が脱線してしまいました。この話は割愛させていただきます。「部分最適化・枠組み論の横行により社会がバラバラになり縦割り化がすすんでしまっている。」そういう発想からいかに逃れるか。ここが今後の社会システム構築の際、最大のポイントになります。では、こんな社会を変えるにはどうすれば良いでしょうか？私の望む取り組みを述べます。「新しく自分たちで公共の仕事をやり直す！」です。これ位の気概がないと、世の中良くならないように思います。税金を払っている私たちが行政のやるべき事を市民活動等で行うのは変でしょうか。私は行政批判だけでは駄目だと思います。今の世の中は議員や役人に任せっきりにしてしまつたからうまくいっていない。という事であれば、どうすればいいか。今まで通りヤイヤイ言う？違います。私たちが公共事業とされるもの等で見本を見せるしかないと思います。一例になります。それは障害者福祉施策かも知れません。地域清掃活動かも知れないですし、自殺対策かも知れません。これが私の実現したい社会です。難しい政治課題・行政課題とされているものは、そもそも今の社会・行政だけでは解けないのではないかと。相性が悪いのではないかと：試行錯誤の毎日です。前回に続き、難しいテーマである事は重々承知しているのですが、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってください。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成26年1月23日

増田好秀